

2025年12月11日

特別の教育課程による日本語指導の地域教育体制強化に向けた調査

～ 実証事業の概要について ～

共生社会実現コンソーシアム事業共同体
代表:特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっと

《概要》

当法人が運営する小学校跡地「いくのパーク」にて、「教育免許は持たないものの日本語教師の有資格者」である専門スタッフが、外国人児童生徒が在籍する学校や日本語指導が必要な子どもの教育センター校、大阪市教育委員会等と密な情報連携のもと、日本語指導を行う。実証の際には、**現行の「特別の教育課程による日本語指導」と同等以上の質が担保**されるよう、指導状況の管理や学力測定、実証参加者へのアンケート等を行う。

対象者：小学校4年から中学校2年10名

時期：2025年9月18日から2026年3月13日

指導手法：「センター校」に準じた教育課程の時間帯で、週2回の通学実施

《取組内容》

- ①地域の小中学校との連携体制構築と児童生徒個々の日本語力アセスメントの実施
- ②専門スタッフによる個別の日本語指導計画の作成
- ③個別最適化された日本語指導の実施
- ④Web3技術を用いたカルテツール「Roots Note」による指導実績と習得状況の高度暗号化記録の実施
- ⑤保護者の同意のもと、学校への情報連携

《情報連携／情報登録》

【Web3技術を活用した日本語指導カルテツール「Roots Note」の開発活用】

- ①児童生徒の背景情報、②日本語力アセスメント結果、③個別の日本語指導計画、④指導内容情報、⑤その他（生活等の困り感等）の情報を登録し、登録情報に基づき、在籍校等と連携を行う。

《規制改革に向けた論点事項／主な調査事項》

1 地域の小中学校等との連携体制を有する者及び当該者が運営する場所について

- (1) 大阪市教育委員会事務局や「センター校」、在籍校と日本語教育に係る連携体制の構築を行い、本事業の推進を通じて、日本語指導の質を同等以上のものとするため、「**既存センター校と同等程度の連携が大きな負担なく行われること**」、「**児童生徒の通級に係る学校数地外における移動が安全に行われること**」が十分に確保されることを確認する。
- (2) 既存センター校と同等程度の連携については、「児童生徒の日本語指導状況等の情報管理」と「在籍校との情報連携」を安全かつ効率的に行うため、Web3技術を用いたカルテツール(Roots Note)を開発導入し、これを活用した在籍校との情報連携が、「**既存運用に比べて効率的に行われたこと**」を在籍校の関係者へのアンケート等を通じた定性評価を実施する。

2 相当程度のスキルと実績を有する日本語指導を行うスタッフについて

- 大阪市教育委員会の日本語能力評価基準／指導修了基準として、センター校では日本語能力試験(JLPT)等を参考指標とし、N5相当レベルの到達で指導修了と判断している現状を踏まえ、本事業に参加する児童生徒についても、**事業終了前に大阪市教育委員会と協議の上、「N5相当レベル試験」を実施**し、日本語力の伸びを測る。

※なお、日本語能力試験(JLPT)は成人を主な対象として設計されており、子どもの発達段階や既習項目に十分に対応した内容とは言いがたく、習熟の状況を柔軟に評価する手法としては制約もある。そこで、本事業では同委員会と協議の上、文部科学省が令和7年6月末に公表した「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のためのことばの発達と習得のものさし(略称:ことばの力のものさし)」を参考指標にしたアセスメントも実施し、児童生徒の学習回数や個別の進捗等に応じて、総合的に習熟状況を測る。

【教育委員会】

【事務局指導部(人権・国際理解教育G)】

首席指導主事

総括指導主事

【A学校】

学校設置者

教員

Web3技術を活用した
日本語指導カルテツール
「Roots Note」



《情報連携／情報登録》

- ① 児童生徒の背景情報
- ② 日本語力アセスメント結果
- ③ 個別の日本語指導計画
- ④ 指導内容情報
- ⑤ その他(生活等の困り感等)

【事業者】

【本事業事務局】

拠点責任者

運営管理者

日本語指導スタッフ:5名

(2人児童・生徒／1人指導スタッフ体制)

子

子

指導



○2025年7月～9月（事業計画フェーズ）

- ・ **【連携体制の整備】** 調査実施事業者を中心に、教育委員会や対象児童生徒の在籍校を含めた連携体制を整備
- ・ **【同意取得フロー等の検討】** 対象児童生徒の決定や当該保護者からの同意取得方法の検討及び実施
- ・ **【指導内容等の検討】** 対象児童生徒より聞き取る背景情報項目やアセスメント内容、教材等の検討及び準備
- ・ **【システム開発】** 在籍校の情報連携ツールとして、Web3技術を活用した「Roots Note」を開発

○2025年9月～2月（事業実施フェーズ）

- ・ **【背景情報の収集】** 対象児童生徒と指導スタッフとの対話を通じて、背景情報の収集を実施
- ・ **【初回アセスメントの実施】** 指導スタッフによる初回アセスメントを実施し、結果を収集
- ・ **【指導計画の作成】** 背景情報やアセスメント結果を踏まえた、対象各児童生徒に対する指導計画を作成
- ・ **【指導の実施】** 児童生徒に対する指導計画に基づいて、日々の指導内容や利用教材の最適化及びそれらに基づいた指導を実施
- ・ **【指導内容等の記録】** 日々の指導内容や対象児童生徒の生活等を含めた情報を収集
- ・ **【最終アセスメントの実施】** 事業の指導効果を測定するため、最終アセスメントを実施
- ・ **【在籍校との情報連携】** 以上の取組みで得られる情報について、「Roots Note」を用いて対象児童生徒の在籍校と共有

○2026年2月～3月（事業終了フェーズ）

- ・ **【データ分析連携テスト】** 指導実施フェーズ約半年間の取得データの分析および連携基盤へのデータ連携テストを実施
- ・ **【報告書作成提出】** 取得データとその分析結果、調査結果を含む報告書を作成し、提出

参考資料

○ 主な調査事項の整理（日本語指導の質が同等以上であること）

《大阪市教育委員会の日本語能力評価基準／指導修了基準について》

- 日本語能力試験（JLPT）等を参考指標とし、N5相当レベルの到達で指導修了と判断されている。

《本事業の日本語能力評価基準／指導修了基準の方針について》

1 「センター校」への視察の実施

⇒ 7月末に1校、8月下旬以降にその他「センター校」への視察を行い、「センター校」での卒級目安の運用等について現状確認を行う。

2 日本語能力試験（JLPT）のN5相当レベルの試験を実施

⇒ 「センター校」では、日本語能力試験（JLPT）のN5相当レベルを到達目標としている現状を踏まえ、本事業に参加する児童生徒についても、事業終了前に大阪市教育委員会と協議の上、N5相当レベル試験を実施し、日本語力の伸びを測る。

※ なお、日本語能力試験（JLPT）は成人を主な対象として設計されており、子どもの発達段階や既習項目に十分に対応した内容とは言いがたく、習熟の状況を柔軟に評価する手法としては制約もある。

⇒ そこで、本事業では同委員会と協議の上、文部科学省が令和7年6月末に公表した「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のためのことばの発達と習得のものさし（略称：ことばの力のものさし）」を参考指標にしたアセスメントも実施し、児童生徒の学習回数や個別の進度等に応じて、総合的に習熟状況を測る。

評価基準	指導終了基準	参考指標
日本語能力試験（JLPT）	N5相当レベル試験の実施	「ことばの力のものさし」

○ 事業実施風景（授業等の様子）



《本事業における宿題（日本語作文）》

わたし
私／ぼくのクラスメート

私のクラスメート、 が
背が高くてとても親切です。
彼は私が日本語を理解するのを手伝って
くれて、先生の話を時々訳してくれます。
 人同士と
いうこともあって、私たちの間にはとても強い
絆があります。



○ 主な調査事項の整理（連携協働体制を有すること）

《地域における日本語指導の体制について》

本事業では、地方公共団体又は学校設置者と連携協働関係を有する事業者が、大阪市教育局事務局、「センター校」、在籍校等と連携し、地域の小中学校に在籍する児童生徒への日本語指導体制が構築し、「センター校」での既存日本語指導スキームと同程度の連絡・連携体制を確保する。加えて、先進技術を活用した安全かつ効率的な情報管理・連携の仕組みを導入することにより、日本語指導や指導状況等の情報管理・共有に係る学校・教員の負担軽減を図る。

《本事業における地域の小中学校等との連携方針と評価の方向性について》

1 日本語教育に係る連携体制について、以下の内容を基本として体制構築を行う

- ・ 大阪市教育局事務局：事業推進や日本語指導内容等に対する協議、指導対象児童生徒への説明等の支援等
- ・ 「センター校」：既存の体制や運用面、制度面等の共有等
- ・ 在籍校：指導対象児童生徒への説明、事業運営上の情報連携等の既存「センター校」運営と同様の支援、連携

⇒ 本事業の推進を通じて、連携体制が十分であったことを確認する。具体的には、本事業を通じて、日本語指導の質を同等以上のものとするため、「既存センター校と同等程度の連携が大きな負担なく行われること」、「児童生徒の通級に係る学校敷地外における移動が安全に行われること」を確認する。

2 既存センター校と同等程度の連携については、「児童生徒の日本語指導状況等の情報管理」と「在籍校との情報連携」について、安全かつ効率的に行うため、Web3技術を用いたカルテツール（Roots Note）を開発し、導入する。

⇒ Roots Noteを活用した在籍校との情報連携が既存運用に比べて効率的に行われたことを、在籍校の関係者へのアンケート等を通じた定性評価を実施する。

○ 調査実証内容 (Roots Noteサンプル画面(1))

≪「Roots Note」在籍校との情報連携画面サンプル≫

〈指導所見〉

「～たり～たり』『～たことがある』の表現に必要な「タ形」を学びました。すでに学んだ「テ形」と同じ形（音便）なので、テ形の活用を思い出しながら、学びました。文の名詞化の“の”を学ぶことで、「～のが好きです』『～のを忘れました』など、名詞節の複文を学び、表現の幅を広げました。

〈児童生徒の様子〉

宿題の作文を、授業の開始前からこちらに向けて、広げて出していて、ルーティンとして定着していると思いました。また、内容も、日本語を教えてくれるクラスメートとの関係を「絆」と表現する、すばらしい作文でした。

自由会話では、「インターネットで何をする」という話題で、「ホラー映画を見る」というので、「貞子」の話をする、知っていました。たくさんの動詞活用が次々に出てきますが、一つ一つ学び取ろうとする真摯な姿勢を感じます。

■■■■先生、いつも、コメントをくださり、ありがとうございます。

在籍校：■■■■学校

在籍校先生：■■■■

〈児童生徒の様子〉

■■■■もう作文が書けるんですね！素晴らしいです。先週木・金は保育園に職場体験に行ってきました。子どもたちとしっかり関われたようですし、グループのメンバーとも仲良くなれたと言っていました。

来週水曜日は午前中テストですので欠席します。連絡が遅くなり申し訳ありません。ファイル表紙の予定表にも×をつけております。よろしくお願いいたします。

○ 調査実証内容 (Roots Noteサンプル画面(2))

《「Roots Note」日本語力アセスメントの実施画面サンプル》

STEP1『聞く・話す力』

指導員の行動

1 質問をする。
2 吹き出しを指差し、発話を促す。

課題/質問項目

1-(1) 名前を教えてください。
1-(2) 何年生ですか
1-(3) 何歳ですか。
2 何と言いますか。

問題

2-(1)



児童生徒の行動

1 質問に答える。
2 吹き出しに合う表現を発話する。

回答例

1-(1)○○(です)。
1-(2)○ねんせい(です)。
1-(3)○さい(です)。
2-(1)おはよう(ございます)。
2-(2)さようなら。
2-(3)こんばんは。

正誤判定方法

6問中4問以上でできていれば○とする。

判定

○

×

○

○

最新のアセスメント結果

最新のこぼちチャレンジ実施日： 2025/8/28
最新のみとりチェック実施日： 2025/8/28
最新の総合評価実施日： 2025/8/28

各力	STEP1	STEP2	STEP3	STEP4	STEP5	STEP6	STEP7	STEP8
聞く・話す		●	▲				★	
読む			●	▲			★	
書く				●	▲		★	

● 現状 ▲ 3か月後に目指すSTEP ★ 現在ステージで到達を目指すSTEP

《「Roots Note」日本語力指導計画・指導記録等の画面サンプル》

通名	テスト10	作成日	2025/8/28
カナ	テスト	作成者	日本語指導員A
聞く・話す力	覚えたばかりの決まった形を使ってやりとりができる。(困りごとを伝える[例「お腹が痛い」、お礼を言う[例「ありがとう」、許可を取る[例「先生トイレにいてもいいですか」。自分自身のことなど(家族の構成、好きなもの/こと、将来の夢、日常の出来事などについて、教師や友だちなどのゆっくりはききした質問に既習の語彙・句や単文、よく使われる表現を使って答えることができる。日常生活や学校生活で、教師や友だちに働きかけるために必要最低限のやりとりができる。(例「消しゴムを貸してください」、誘う[例「いっしょに帰ろう」]		
読む力	カタカナがいくつか読める。 指で文字をなぞりながら読む。 長音・拗音・促音を含むひらがな・カタカナで書かれた日常的な単語がおおむね読める。		
書く力	※母語での書く力が高い場合、文法や語彙の選択に誤用があるが、既習の語彙・表現や文型を使って、単文や重文、簡単な複文を用いた文章を書ける。 表記や文法には誤用があるが、日常的な会話で用いられる高頻度の語彙・表現を繰り返し使って、重文、簡単な複文を含みつつ主に単文で短い文章を書ける。 ※母語での書く力が高い場合、文法や語彙の選択に誤用があるが、単文や重文、簡単な複文を用いた文章を自由に書ける。		
自由記述			
指導目標	あ		
日本語学習内容	あ		
聞く・話す力	周りの状況に合わせて行動する。(例：教科書を取り出す)。 基本的な挨拶(例「おはよう」)ができる。 日常生活や学校生活で簡単な質問(例：移動教室「どこに行きますか?」)ができる。		
読む力	日本語にはひらがな、カタカナ、漢字の区別があることがわかる。 自分の名前や学年・組・学校名など、自分に関係のある語がおおむねわかる。 長音、拗音、促音ものをぞくひらがなで書かれた日常的な単語がおおむね読める。		
書く力	ひらがな・カタカナをおおむね区別して確認しながら知っている単語を書くことができる。 対話による支援を得て、自分に関わる高頻度の語彙・表現を繰り返し使い、単文を連ねて短い文章を書ける。 書きながら、あるいは書いた後に、読み返して自分の間違いに気づいて修正できる。		
自由記述			

《指導記録・ジャーナル》

指導記録・ジャーナルを追加

最新の指導記録

実施日:
2025年8月28日

指導時間:
02:02 ~ 04:00

担当指導員:
日本語指導員A

使用教材:

- あ
指導項目: あ
指導ターゲット: 聞く・読む
- い
指導ターゲット: 話す・読む

指導所見:

ああ

10